

教員5年目の記録

2019年 理工学部数理システム学科 卒業
宇治市立西宇治中学校 中小路 崇仁

(1) 教員を目指した学生時代について

大学1年次の教職の講義で心に残った言葉があります。「学校には色んな子どもがいて、その子どもには多様な考え方の保護者がいる。大学時代に色んな人に出会い自分の価値観を広げて、教員になってほしい。」私は見識を広めるため、長期休暇を使って、国内や海外に一人で旅をしました。現地できちんと体験を重ね、色んな人に支えていただきました。視野を広げることを目標とした旅でしたが、計画を立てる力や、実行する力も身に付けることができたと思っています。

大学3年次では、学生ボランティアを通して学校現場で学びました。また京都府「教師力養成講座」も受講させていただきました。そこでは、生徒の成長を見ることができ、教職の魅力を感じました。生徒や先生方、同じ志を持つ仲間と出会ったことなど、学生時代の人との繋がりは、今も自分の支えになっています。

(2) 教員という仕事の魅力・やりがい

教員の仕事の魅力は生徒の成長を実感できる所です。数学の授業では、苦手意識の強かった生徒が、問題解決ができたときに目を輝かせていたり、主体的に数学の楽しさに気付いて粘り強く考えている姿を見たりすると、やりがいを感じます。また学校行事や部活動では、得手不得手がある生徒が1つの目標に向かって協力していきます。一人一人の成長だけでなく、集団としての成長も感じることできます。

日々の学校生活を通して生徒の成長を見守り、やがて卒業式を迎えます。生徒は身体も心も大きく成長して旅立ちます。私は教員1年目のときに1年生を担当し、3年目で卒業を見届けました。生徒の門出の喜びと同時に別れの切なさを感じて複雑な気持ちでした。不器用ながらも生徒に一生懸命向き合う3年間を過ごし、卒業式では生徒から溢れんばかりの感謝の思いを受け取りました。教員という仕事の魅力を一番実感した日でした。

(3) 今後の目標

目標は魅力的な授業を実践することです。生徒が「わかった」「できた」を実感し、主体的に取り組み、考え続ける授業をしたいと考えています。そして、教育活動で成果を得て実践研究論文を書くことができればと思っています。自分自身の授業や生徒の実態や課題を見出し、先行研究を参考にして、課題解決のための仮説や実践の工夫・展開、それらが効果的であったかの検証と考察を行いながら、自分の教育活動を見直したいと考えます。そして生徒を深く理解できるような教員、生徒にとって学びの深い授業を具体化できるような教員になれるよう研鑽したいと考えます。

(4) 教員を目指す学生へのメッセージ

大学生活では、広い視野と深い知識を築き、様々な人々と関わることができます。その環境の中で、コミュニケーション能力を高めてほしいと思います。また教育現場では、生徒や保護者との信頼関係がとても大切です。教員は生徒の成長を間近で見ることができ、共に学び、成長することができる仕事です。生徒の可能性を大きく伸ばすことができる教育者として、志を大切に、生徒の夢や未来のために共に頑張っていきましょう。いつか教育現場で会えることを楽しみにしています。